HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	現代朝鮮語における方向を表す名詞**가로**(横)・**세로**(縦)について
Author(s)	門脇, 誠一
Citation	北海道大学文学研究科紀要, 112, 149-170
Issue Date	2004-02-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34066
Type	departmental bulletin paper
File Information	112_PL149-170.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学研究科紀要 112 (2004)

現代朝鮮語における方向を表す名詞 가로 (横)・세로 (縦) について(1)

門脇誠一

1. はじめに
2. 先行研究
  2.1 日本語の場合
    2.1.1 辞書の記述
    2.1.2 先行研究
  2.2 朝鮮語の場合
  2.3 その他 英語・中国語の場合
3. 朝鮮語における가로・세로の意味・用法
  3.1 辞書の記述
  3.2 朝鮮語と日本語について
  3.3 가로・세로の用法

---

(1) 日本語では「たて・よこ」の順に言うのが普通であるが，朝鮮語の場合は「가로・세로」の順に，つまり「よこ・たて」の順に言うのが普通である。これは辞書に登録されている順序によるものである。
なお，「ナナメ」については비스듬하다「傾いている」という形容詞があり，その副詞形 비스듬히「斜めに」とともに使用されるが，日本語の「ナナメ」とは異なっているので注意しなければいけない。たとえば，「魔方陣」に数字を書き入れる場合，タテ・ヨコ・ナナメニという意味では 가로로・세로로・대각선으로 (対角線に) と言わなければならない。もし，비스듬히と使うと，数字自体をイタリック体のように傾けた形で入れるという意味になってしまう。斜線の場合であれば，線自体が傾いているので使用できることになる。

3.3.1　가로・세로 が先行する複合名詞について
3.3.2　가로 が先行する複合動詞の用法について
4．結論

1．はじめに

本論は，日本語・朝鮮語における空間・場所を表す形式に関する対照研究の一環として，まず「方向」を表す名詞の中，日本語の「タテ・ヨコ」に対応する朝鮮語の「가로・세로」に関する意味・用法を記述することを目的としている。これまで朝鮮語の基本的な語彙の意味分析に関する研究はあるにはあるが，梅田（1971）以来積極的に行なわれてきたとは必ずしも言えない状態で，この方面のこれからの本格的な研究が望まれるところである(2)。日本語の「タテ・ヨコ」は『分類語彙表』では1.1700「空間・場所」の中の1.1730「方向」に分類されており，一方，朝鮮語の「가로・세로」は梅田（1971）では「空間」を表すものとして分類されている。いずれも日本語，朝鮮語の固有語であり，品詞としては名詞としての性質を有している(3)。そして，両言語には同時に多くの場合借用語としての漢語が共存しており，その使われ方には勿論似ている点はあるが，やはり異なった点もある。

2．先行研究

日本語の「タテ・ヨコ」について触れているものとしては，国広（1982）岩野（1983），森田（1984），金田一（1988）などがあり，朝鮮語については

(2) 門脇（1994），油谷幸利（2003）などを参照
門脇（1997）では，辞書の意味の記述を一度ご破算にしてやり直す必要があることを指摘した。

(3) 日本語・朝鮮語ともにタテと세로がそれぞれ「立つ，立てる」「서다（立つ），세우다（立てる）」と関連性があることが容易に推測できるのに対して，ヨコと가로についてはいずれも関連性のある語が容易に推測できない。

梅田（1971）だけである。

2.1 日本語の場合

2.1.1 辞書の記述

「タテ・ヨコ」に対する辞書の記述がどうなっているかを，『角川国語辞典』と『大辞林』の2冊の辞書を通して見ることにしよう。

(1) 角川国語辞典の記述

たて

① 上下の高さ・長さ
② 南北の方向・距離
③ 〔数〕立体・平面の，最も長いさしわたし
④ 縦糸

よこ

① 左または右の方向
② 左右の長さ
③ 東西の方向・距離
④ 〔数〕立体の正面と直角をなす立面。側面
⑤ 横糸
⑥ かたわら
⑦ よこしま。不正

(2) 大辞林の記述

たて 【縦／竪／経】

① （水平に対して）上下の方向。垂直の方向。また，その長さ。
② （左右に対して）前後の方向。また，その長さ。
③ （比喩的に）同僚の関係でなく，上司と部下との関係
④ 南北の方向。また，その距離。
⑤ 「経（たて）糸」に同じ

よこ

① （上下に対して）水平の方向。また，その長さ
② （前後に対して）左右の方向。また，その長さ。
③ （比喩的に）上司・部下の関係ではなく，同僚の関係。
④ 東西の方向。また，その距離。
⑤ 立っていないで，ねかしてあること。
⑥ 正面・背面ではなく，物の側面。
⑦ かたわら。わき。左右。
⑧ 関係ない方面。局外。
⑨ 「緯（よこ）糸」に同じ。
⑩ 不正。よこしま。

これを見ると，(1)と(2)で共通しているのは，まず，タテについては，「上下の方向」「前後の方向」と捉えている点，（ただし，それが話し手の外に基準があるのか，話し手の側に基準があるのかといったことについては一切触れていない。）ヨコという語にはタテという語にない「かたわら。わき」という位置名詞の使い方，また「不正。よこしま」といった意味があることがわかる(4)。注意すべき点は，(1)に〔数〕として「最も長いさしわたし」という記述が見えることである。この長短が現代日本語のタテ・ヨコを判断するときの基準になるかどうか検討する必要があるように思われる。

2.1.2 先行研究

「タテ・ヨコ」とそれに関連のある語を扱ったものを以下に見ていくことに

(4) 朝鮮語で，「右手，左手」は 바른손，왼손 というが　この場合の 바른，왼 という形は 바르다（正しい），외다（ねじけている）の連体形である。元来「いいほうの手，悪いほうの手」と言っていた可能性がある。つまり，体の部位で対になっている語にはこのように一方がプラスの意味，他方がマイナスの意味を持っている場合があることがわかる。

しよう。

「タテ・ヨコ」はどのように決まるのであろうか。すべての言語に普遍的な基準があるのか，あるいは言語によって異なっているのか，ということはすべての言語に当たって見て初めてわかることであるが，さしあたりここでは日本語，朝鮮語，中国語，英語を例にとって考えてみることにしよう。

筆者は，論文を書く予備段階として次のような簡単な実験を試みてみた。

日本人の学生と韓国人の留学生に，白紙の長方形と長い辺に平行に文字を書いた長方形と短い辺に平行に文字を書いた長方形を用意して，それぞれの用紙をタテ・ヨコに折るように指示してどちらの辺に沿って折るかを観察した。日本人の学生はほぼ，白紙の場合と文字が書いてある場合とでは異なった反応を示したのである。白紙の場合は，目の前に置かれた用紙に対し，いずれの辺を水平に置こうと話し手の視点によって，話し手の前後方向をタテ，水平方向をヨコと捉えて折ったのである。中には一人だけ辺の長いほうをタテ，短いほうをヨコとして折った学生もいた。聞いて見ると，中学校のとき数学の先生から長い方の辺がタテで，短いほうの辺がヨコだと教わったとのことであった。一方，文字が書かれている用紙については，文字の方向が用紙の前後方向，つまり上から下へ書いている場合は迷わず前後方向に平行に折ったのに対し，同じ用紙を水平方向に置き換えてタテに折るように指示すると，迷いながら前後方向に折る学生と，紙の方向を変えて文字の書かれている方向と平行に折る学生がいたのである。

韓国の留学生はどうかといえば，やはり白紙の場合は日本人学生と同様，上下・左右の方向をタテ・ヨコととらえ即座に折ったが，文字が書いてあるものについては，長い辺に平行になるように文字を書いて，その辺を水平になるように置き，タテに折るように指示するとやはり即座に折ることができず，戸惑って結局は折る動作に移らなかったのである。つまり，図形に上下，前後の目印がない場合は，即座に話し手の視点からタテ・ヨコを決めて折ることができたが，文字が書いてある場合は，その用紙の上下方向と話し手の視点とが一致する場合は問題ないが，一致しないときには迷いが生じるのではないかと想像される。

ただ，この実験で日本人の学生に，長い辺を「タテ」短い辺を「ヨコ」と中学校のとき習ったという学生がいたのは興味深い。全部で10人ほどの学生を対象にして調べたかぎりでは，日本人の学生と韓国人の学生との間でほぼ同様の結果を得た。

以下，タテ・ヨコに対して更に考察を加えていくが，まず日本語の「タテ・ヨコ」を扱った論文に載っている記述から検討することにしよう。

1．金田一春彦

金田一（1988）では「タテ・ヨコ」に対して，

「われわれの両眼を結んだ線に対して平行な方向が横で，それに直角にまじわる方向が縦」と定義している(5)。

2．さらに国広（1982），岩野（1983）では次のような基準を立てている。

国広

I	絶対用法	重力の方向を基準	洋服のタテ縞など
II	相対用法	話し手の視点を基準	本や絵のタテ・ヨコなど
III	形態用法	形そのものの特徴	反物のタテ糸・ヨコ糸など

岩野

① 対象物の中に基準があるもの　長方形の白紙を縦に折る

② 重力に基準があるもの　壁に貼りつけた白紙のたてとよこ

③ 人間の側に基準があるもの

国広は，絶対用法，つまり垂直方向と水平方向によって決まるタテ・ヨコをタテ^1，ヨコ^{1}とし，相対用法，つまり，タテ^1，ヨコ^{1}を話し手の視線の方向に合わせて水平面に投影したものをタテ^2，ヨコ^{2}とした。この場合のタテ^{2}は話し手から見て前後方向，ヨコ^{2}は左右方向になるわけである。ところで，本や絵などのタテ・ヨコを相対用法，つまり，「人が読んだり見たりするときの方向によって決められる」ものと見ている。しかし，本や絵には普通上下関

(5) 金田一（1988）『日本語上』pp 245～246 参照

係が決まっており，それを目印にしてタテ・ヨコを認識しているのではないかと思われる。特に手にとって見る時には上下方向はもっと容易に決められるであろう。そのときは，本や絵の上下方向を基準にしてタテ・ヨコが決められるので，ことさら話し手の視点を強調する必要はないように思われるのである。もし，本のように綴じてあるが，表紙を含めてすべてに全く文字が書かれていない場合であれば迷うかもしれない。それでも，扉があるのだから，右から開こうが左から開こうが，また水平方向が長かろうが短かろうが，またさかさまにしようが，タテ・ヨコを決めることは難しくはないように思われる。ただ，下から上に向かって開いて見るものもないわけではないが，文字が書かれていないのだから，普通は左右に開くことを考えるのではないだろうか。絵の場合も，抽象画のように上下方向が決めにくいものがあるかもしれないが，その場合でも作者のサインなどを手がかりにして上下方向を確認するであろう。

一方，机の上に白紙の状態で紙が置かれているような場合は，その用紙自体の上下方向が決められないので，話し手の視点によって決めるか，用紙の辺の長短によって決めるしかない。日本語の場合，このようなときには話し手の視点によって決めることが多いのかもしれない。そして，その場合話し手は即座に判断できず迷うことになるのではないかと思われるのである。

要するに，私たちが対象物のタテ・ヨコを把握する際，まず，その対象物に上下を示す特徴を探そうと努め，特徴が見つかればそれを基にタテ・ヨコを決め，上下を示す特徴が見つからない場合は，話し手の視点を導入してタテ・ヨコを決めるという操作をしているのではないかと思われるのである。

つまり，優先順位があるのではないだろうかということである。

国広氏は，前掲論文のなかで，小学校の先生の間で直方体のタテ・ヨコがどの辺を指すのかを決められず混乱した例を紹介しているが，そうした混乱を避けるために，算数・数学の分野では長いほうの辺を「タテ」，短いほうの辺を「ヨコ」としているのかもしれない。

一方，岩野（1983）も国広（1982）とほぼ同様の3つの基準を考えているが，「転写」という概念を使用して，国広氏の提案のいくつかに対し異なった

説明を試みている。それでは，まずこの「転写」という概念を検討してみよう。岩野氏によると，「転写」とは，人間が，「しかるべき正しい位置にあるとき，重力の基準や人間の基準が焼きつ」いたものだという[6]。そして，国広氏が「洋服のたて縞」を「絶対的基準」で説明したのに対して，「人間が着用しておらずに，畳の上に置いてあったとしても，依然「縦縞」なのである。」として，このような現象を「転写」として説明している[7]。

確かに，国広氏が「洋服のタテ縞」に関し，「話し手の向きとか視点の位置とは無関係である」としたのはよいが，これを「重力の方向を基準とする」「絶対用法」としたこと，さらに，「本のタテ・ヨコ」に関し，「話し手の視点の位置次第で判定が変わってくる」「相対用法」とした見解には納得しにくいものがある。これらについては，前述のとおり，「洋服」の場合は明らかに対象物が上下関係を決める特徴が備わっており，それを基準にしてタテ・ヨコが決められるし，本や絵の場合も通常上下方向を決めるだけの特徴を有している場合が多いのであり，上下方向が決まれば自動的にタテ・ヨコが決まるのではないかと思われるのである。

一方，岩野氏の説明についても，検討すべき点がある。それは，長方形の白紙を縦に折る場合，①対象物の中に基準があるものとして，「通常は，長いほうの辺に平行な折り目を入れることを表すと考えられる。」[8] としている点である。その疑問についての説明は上述のとおりである。

我々が図形を見てそのタテ・ヨコを認識する典型的な場合は，上下方向が明らかな図形が壁などに貼ってあるものを，話し手が垂直に立って見る場合であろう。つまり，話し手の視点と重力の方向とが一致する場合である。この場合，長い辺が垂直方向にあっても，水平方向にあっても，上下方向がわかればタテ・ヨコを判断するのに戸惑う人はいないのでないだろうか。問題は，壁などに貼られたものが上下方向を表す目印のない白紙の場合である。

---

[6] 岩野（1983）p 176

[7] 岩野（1983）p 177

[8] 岩野（1983）p 170 参照

それでも垂直方向に長い辺が来て，水平方向に短い辺が来ている場合は比較的簡単にタテ・ヨコが決められるのではないか。水平方向に長い辺が来た場合も筆者なら，やはり垂直方向にある辺をタテと言いそうな気がする。このことは，話し手の視線の方向に合わせて水平面に投影した場合，つまり机などの上に置いてあるような場合でも同様のことが言えるのではないかと思う。さらに，視線を上に向けて天井や空を見上げた場合にも同様に考えることができそうである。

なお，岩野氏は最後に「これだけ多くの概念をタテ・ヨコという一対の語でまかなっていることは，やはり金田一春彦氏の指摘のごとく日本語の特質の一つと考えてよさそうである。」と述べているが[9]，実は朝鮮語にもタテ・ヨコに相当する語があり日本語に劣らずいろいろな用法を持っていることを指摘しておきたい。

3．一方，これに対して森田（1984）は絶対的基準・相対的基準の区別をせず単に上下方向，前後方向に基づいてタテ・ヨコを決めている点が異なる。つまり，「上から下への方向」を言い，「垂直の方向でなくとも，上下に相当する関係とみられる方向も準じて「縦」と考える。」そして，上下関係はどのようにして認識するかについては，「この世の物は平面状のものでも立体状のものでも，多くは上下方向を示す何らかの指標があるから自ずと縦横の関係は決まってくる。」と述べ，その例として「スイカのへた，葉書」をあげている。葉書は「水平方向になっていても，上下の方向があるから縦横が設定できる。」と言うわけである。筆者もこの考えに従いたいと思う。

それでは，上下方向がはっきりしない場合はどうするかということについて次のように述べている。

「上下方向が存在しないものの場合には，そのほかの何らかの基準に従って縦横が決められる。」として，「川や道路は，水や車の流れによって方向性が決められるから，その流れの方向に沿うのが縦，流れを切る方向が横とな

---

[9] 岩野（1983）p 186

る。」[10]

机などの前後関係はどのようにして決まるかと言えば，それは「引き出し」のついている方が「正面」であり，それを基準にして前後関係が決まるわけである。

しかし，じゅうたんなどのように「上下や前後，あるいは正面の設定できない物の場合にはどうか。」といえば，その場合は「二辺の長さを比較して，長い方の線にじゅうたんの方向性があると判断する」という[11]。

このことは，話し手が立っている場合の垂直な方向と，話し手の視線に合わせて水平面に投影した方向（前後方向）だけでなく，視線を上に移動して天空を仰いだ場合にも適用されるものである。

川や道路の場合は，普通幅よりも水や車の流れる長い方をタテと把握している。そのことはその長い方向に交わる方向に進行するとき「横切る」という動作になることからわかる。ところが，空の場合は川や道路のようには簡単に縦横を決めることができない。この場合は，両眼を結んだ水平線に直交する視線の方向に平行な方向がタテと考えられるのではないだろうか。

「飛行機が空を横切って飛んでいる」というのは，飛行機が視線の方向に平行に飛んでいる場合には言いにくいように感じるし，やはり視線の方向に直角ではなくても交わる形で飛んでいないといけないだろう。

2.2　朝鮮語の場合

朝鮮語においてはどのようにタテ・ヨコが決まるのだろうか。

2.1.2 で行なった簡単な実験からは日本語と朝鮮語に顕著な違いがないように見られた。ただ，立体については，数学の分野ではそれぞれの平面が特徴をもっていないので，底面について「タテ・ヨコ」を用い，底面に垂直になっている辺に対して「高さ」を用いることになる。しかし，テレビなどの場合には画面，つまり垂直の平面について「タテ・ヨコ」を用い，底面につ

---

[10] 森田（1984）

[11] 森田（1984）参照

いては朝鮮語の場合は「 안길이 」が用いられる。またこの場合，「 깊이 」(深さ) という語も使えるようである[12]。これに対して日本語の場合は「奥行き」という語が使われる。

2.3 その他 英語・中国語の場合

ちなみに，英語と中国語ではどのように表現するかを簡単に見てみよう。

1.「長方形」の面積の出し方を英語ではどのように説明するのかを，インターネットで調べてみると次のような2つの方式があることがわかる。

① Area of a rectangle＝length × width

② Area of a rectangle＝base times height

なお，①の length と width との関係は「タテ」と「ヨコ」との関係に相当すると普通と考えられているのではないかと思われる。実際そのように図示されている例もあるが，しかし，その逆の表し方をしている例も見えるのである。このことから，前者は辺のうち長いほうを指し，後者は短いほうを表しているとも考えられるものである。その例をあげておこう。

Which of these is the area of a room that is 6 feet wide and 8 feet long? という問題に解答の選択肢があり，同時に次のような図形が載せてある。

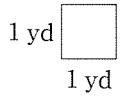
また日本語式に言えば ヨコ3センチとタテ2センチの長方形というべきところを

The rectangle is 3 cm long and 2 cm wide. Its area is 6 cm^2 としている例も見える。

---

[12]「 깊이 」(深さ) という語が，穴などのような垂直方向にだけ使用されるのではないことは，日本語でも「洞窟」などの空間に対して「深い」が使用できることからわかる。中国語でも同様のことが言えるようだ。

つまり，length は日本語の「ヨコ」width は日本語で「タテ」に相当する辺についても使用していることがわかる。正方形でタテ・ヨコが同じ長さの場合については次のような説明がある。



正方形

As you can see, each side is 1 yard long.

Area＝ side x side　The area of the squar is side × side. 正方形の面積は辺×辺である

なお，②の base times height「底辺×高さ」という見方は四角形を三角形に分解して説明していることと関連があるのではないかと思われる。このことについては，金田一（1988）で「――むこうにタテ・ヨコという言い方がないことに影響されているのではなかろうか。」と述べている(13)。

2．中国語ではどうであろうか。

岩野（1983）には，「竪」は〈地面に垂直の〉〈上下・前後の〉〈物体の長い一辺に平行の〉という意味，「縦」は〈南北の〉〈前後の〉〈物体の長い一辺に平行の〉と言う意味，とある。留学生に確認してみると，前者は一般的には，重力の方向，つまり〈地面に垂直の〉方向を表し，「縦」は垂直方向にも使えるが，どちらかと言うと前後方向を指すのが普通だとのことだった。そして，そのいずれにも「横」が対応するという。その意味では岩野氏の記述は正しいと言えよう。ただ，平面，立体の面積や体積を出すときに使う「タテ・ヨコ」に対応する語が別にあることについての記述がないので少し触れておくことにしよう。

長方形の面積を出すなどのように，「長さ」が問題になるときは，「長」と「寛」という語を使う。長方形の面積＝長×寛　そして，「長」は長さに関係なく，常に水平方向を表し，「寛」は垂直方向を表すと言う。

---

(13) 金田一（1988 a）『日本語上』pp 245～246 参照

さらに，立体の場合の体積は，体積＝底面×高で表されるが，テレビなどのようなものについては，画面についてやはり水平方向を「長」で，垂直方向を「寛」で表し，日本語の「奥行き」に対しては「深」を使うと言う(14)。

ちなみに，『日中辞典』に「中国語ではたてよこの区別がなく，長いほうが〝長〟，短いほうが〝寛〟」という説明がある(15)。

3．朝鮮語における 가로・세로 の意味・用法

3.1 辞書の記述

(1) 국어대사전 （国語大辞典）

가로

①左右に掛け渡した状態

②左右に広がったかたち

③地面と平行になるように位置している状態

세로

上から下へ至るまでまっすぐに線をおろした様子，状態

(2) 동아 새국어사전 （東亜新国語辞典）

가로

①（上下の方向に対して）左右の方向

---

(14) この「深」とう語は庭などの空間についても使用できるという。
注 11 も参照

(15)『日中辞典』p 1141 参照
一般にはこのように使用されているようであるが，数学の計算や図表それに関連した分野では混乱を避けるために，底辺に対して「長」を，高さに対して「寛」を使用するようになっているらしい。それゆえ，当然「長」のほうが短い場合もありうることになる。以下の例は正にその例と思われるので紹介しておく。
「挿入一個三行一列的表格，長和寛分別為 200 和 300.」
「3 行一列の表を入れるが「長」と「寛」はそれぞれ 200 と 300 である」
なお，この例は大学院博士課程王安君が知らせてくれたものである。

②(数学で) 四角における水平方向の辺，またその長さ

副詞　横に，左右に

세로

①(左右の方向に対して) 上下の方向，またその長さ

②前後の方向　またその長さ

③立体や平面などの最も長い部分　またその方向

朝鮮語の場合も，가로 (ヨコ) 세로 (タテ) を決定する基準についてはなんら触れていない点で日本語と変わらない。ところで，(2)で가로 (ヨコ) 세로 (タテ) の記述の仕方が異なる点があるが，前者において「立体や平面などの最も長い部分　またその方向」としているのが注目される。問題は，どういう場面でそれが使用されるのかということである。

3.2　朝鮮語と日本語について

特に日本語のヨコと朝鮮語の가로を比べてみると，次のような違いがあることがわかる。

① 日本語には「位置名詞」としての用法があるが，朝鮮語のほうにはないこと。

② 日本語のヨコには「不正な，よこしまな」といった意味もあるが，朝鮮語のほうにも少ないがそれらしい用法が見えること。ただし，漢語としては　横領，横行などとして使用する。

ところで，日本語と朝鮮語で　算数・数学で平面，立体を扱うときタテ・ヨコをどのように使用しているだろうか。調べてみると，日本では，教科書やヤフーで調べた限り，三角形，平行四辺形，台形などの面積を出すときは，「底辺」「高さ」という語を使用し「タテ・ヨコ」は使用しないようだし，正方形・長方形のような垂直な辺を有しているものだけ「タテ・ヨコ」を使用しているようである。この点は朝鮮語でも同様である。

では，立体の場合はどうであろうか。算数・数学で使用される立体は正面が特定できないのが普通であるから，どの面を対象にしてもよさそうである

が，それでは不便なのでたいていは，正面がわかるようになっており，その面の垂直な辺が高さになり，その面を 90 度水平にしたのが底辺になるわけである。その際，底面の前後方向がわかるからその方向がタテで，水平方向がヨコになるわけである。つまり，「タテ・ヨコ」は底面に関して使用され，それに垂直な面に対して「高さ」が使用されるのである。

朝鮮語はこの点についても同様である。しかし，日本語の場合，ヤフーの中に正面に現れる平面に対して「タテ・ヨコ」を使用し，それと直角に交わる底面の前後方向の辺に対し「奥行き」という語を使用しているのを見つけた。このような表示は一般的ではないと思われるが，注目に値する。こういう表示の仕方は朝鮮語ではしないし，したとしても，日本語の「奥行き」に対応する形式が存在しないのである。

他方，テレビだとかステレオなどのように，正面が特定できる場合は，日本語では，その面についてタテ・ヨコを用い，90 度水平にした底面について前後方向の辺に「奥行き」という語を当てているようである。朝鮮語ではこういう場合どう表現するかと言えば 두께「厚さ」を使うのが一般的であるが，最近は 안길이[16] という語がよく使われるようになっているようである。

3.3　가로・세로 の用法

3.3.1　가로・세로 が先行する複合名詞について

まず，梅田（1971）で記述されているものから検討してみよう。
これらの語は「空間　362」に載せられているもので　次のように記述されている。

가로　8　센치　세로　한　13　센치　가량　된다．ヨコ 8 センチ，タテ大体 13 センチほどになる
가로로（세로로）쓴다．縦（横）書きにする

---

[16] 留学生の中にはこのことばを始めて聞いたという者が多い。なお，この例は研究生李忠奎君がインターネットで見つけて知らせてくれたものである。

更に続けて次のような説明がある。

「たてに」沿った行動が伴う場合は　길이로　と言うことが多い，として以下の例文があがっている。길이로　쓴다.「縦書きにする」　길이로　놓고　써요.「(紙を) たてにおいて書く」　길이로　짜른다.「たてに切り放す」「たてに（よこに）並べる」なども　모두　세로로（가로로）놓아라.〈たてに(よこに)おけ〉とも言うが　이쪽으로，똑　바로 というふうに motion を伴って指示するのがふつう。「首を縦に(よこに)振る」は 끄떡이다，흔들다 を使う。

しかし，数人の留学生(30代前半)に確認してみたが，길이로 という形は使わないし，聞いたこともないという。どうも現在韓国では若い世代には使用されていないようである。ところで，中国にいる朝鮮族の学生に聞いてみると，布や生地を切るときには「길이로，넓이로」つまり「長い方向に（タテに)」「短い方向に（ヨコに，幅の方向に)」として使用しているとのことであった。

「タテに（ヨコに）並べる」なども 세로로（가로로） 놓다

とも言うが 이쪽으로，똑　바로 というふうに　身振りを使って指示するのが普通。「首を縦に（ヨコに）振る」は 끄떡이다，흔들다 を使う。

1．縦－　横－　가로－　세로－

語構成上の特徴を考えてみる。

① 縦－　横－　が先行要素となる場合は　後に必ず漢語が来なければならない。

② 가로・세로 が先行要素となる場合は　後に固有語が来る場合，つまり混種語となる場合と漢語が来る場合がある

a．固有語

가로글씨（横書きにした文字)／세로글씨（縦書きにした文字)

가로무늬（横縞)／세로무늬（縦縞)

가로흔들림（横揺れ)／세로흔들림（縦揺れ)[17]

b．漢語

縦走

縦断／横断
縦隊／横隊
縦波／横波

c．固有語・漢語

가로쓰기（横書き）／세로쓰기（縦書き）：横書／縦書[17]

d．朝鮮語：混種語

가로축（横軸）／세로축（縦軸）
가로획 横画／세로획 縦画
가로막（横隔膜）
가로방향（横方向）／세로방향（縦方向）
가로열 横列／세로열 縦列
가로선（가로줄，가로금）（横線）／세로선（세로줄，세로금）（縦線）
세로좌표（縦座標）／가로좌표（横座標）
가로파동（横波動）／세로파동（縦波動）
세로형（縦型）／가로형（横型）
가로화면（縦画面）／세로화면（横画面）
가로확대（横倍角）／세로확대（縦倍角）
가로세로비율（タテヨコの比率）

b．の 縦波／横波は地震で言う「タテ波」「ヨコ波」のことであるが，朝鮮語ではこれは常に漢語を使用するようである。

また，d．の例を見てわかるとおり，混種語の例が多いことがわかるが，横波動以下の語は普通大きな辞書にも載っていない語であり，最近使われだ

---

[17] a．가로흔들림 세로흔들림 は地震などの「横揺れ・縦揺れ」に相当する新たに造られた語であるが，語構成上 a．は 가로흔들리다，세로흔들리다 という動詞から直接派生されたものであるのに対して c．가로쓰기，세로쓰기 の場合は 가로쓰다，세로쓰다 という動詞がないことからもわかるとおり，가로，세로 という名詞に 쓰다（書く）からの派生名詞 쓰기 が付いてできたものである。それゆえ，「縦書きする，横書きする」と言う場合は日本語同様 하다（する）を付けなければならないわけである。

したものである。

また，日本語では比較的一般的に使用されるようになっている「縦社会」「横社会」については，その訳語が一定しておらず，カイスト（kaist）または韓国のヤフーで検索して見ると次の3つの言い方があることがわかる。

a．縦（的）社会・横（的）社会

b．세로 社会　가로 社会

c．垂直的社会・水平的社会

a．は「タテ・ヨコ」に漢語が対応しているもの　b．は固有語が対応している混種語であるが，これらの語からは翻訳的な印象を受けるとのことで，実はc．の言い方が一般的に使われているものだと言う。おそらく，c．は英語の表現　vertical，horizontal を朝鮮語に翻訳したものが定着したもので，a．b．の表現はその後，日本語から直接入ったものではないかと思われる。

3.3.2　가로 が先行する複合動詞の用法について

국어대사전（国語大辞典）には 가로 で始まる複合動詞として次の17個が載っている。

가로거치다　가로놓다　가로놓이다　가로눕다　가로누이다

가로막다　가로막히다　가로맡다　가로새다　가로서다　가로지르다

가로질리다　가로차다　가로채다　가로채이다　가로타다　가로퍼지다

これらの意味・用法については，現在調査中で全体の分析が終わっていないので，現在わかっている範囲で報告し，全体像については別の機会に譲りたい。今回は次の5つの語について記述することにする。

가로놓다　가로놓이다　가로눕다　가로누이다　가로맡다

1．가로놓다　가로놓이다

놓다／놓이다はほぼ日本語の「置く，置かれる」に相当する語で具象物を対象にするのが普通である。これに対して 가로 が付くと，「渓谷，障害物，道」などの具象物は勿論，「休戦ライン，懸案，葛藤，闘争の過程」などの抽象物も対象になる。そして，これらが進行方向に対して行く手を阻むように

どっかりと位置していることを示すときに使用されるのである。

① 그러나 일본과 북한은 일본인의 납치 의혹설과 남북관계 둥 국내외 현안이 가로놓여 있어 이번 희담이 순조롭게 본희담으로 연결 될지는 미지수압나다. しかし，日本と北朝鮮は日本人の拉致疑惑説と南北関係等国内外の懸案がどっかりと横たわっていて，今回の会談が順調に本会談へとつながるかは未知数である（Kaist, 2920）

② 나는 문득 그녀의 결연한 목소리가 지금까지 우리 사이에 가로놓여 있던 침묵보다 더 결디기 어려운 것처럼 느껴졌다.
私はふと彼女の決然とした声が今まで我々の間に横たわっていた沈黙よりももっと耐え難いように感じた。（Kaist, 3638）

2. 가로눕다　가로누이다

눕다／누이다 これはほぼ日本語の「横たわる／横たえる」に相当する語である。これに 가로 がつくと，前者について言えば2つの意味があり，「立っている状態から横になる」という意味と，「横向きに寝る」という意味になる。

③ 나는 피로하면 흔히 가로누워 잔다 I often sleep on my side when I'm tired. 私は疲れるとよく横向きに寝る（google）

さらにまた，誤用ではないかと指摘する人が多いが，腹ばいになるように横たわるという意味で使用されている例もあったのであげておこう。

④ 네 발로 기어가면 왜 안전할까? 만약에 강이나 호수에 언 얼음이 얇아서 전너가기 위험할 때、경험이 있는 사람들은 얼음 위를 걸어가지 않고 기어서 네 발로 건너간다. 그들은 왜 그런 짓을 할까?사람이 가로누워도 그 체증은 물론 변화하지 않지만, 체증을 지탱하는 면적이 증가하여 1cm² 당의 무게가 작아진다. 바꿔 말하면 체증을 떠받치고 있는 곳에 미치는 압력이 감소하는 셈이다.

4つ足で這って行くとどうして安全なのか？ もし川や湖に凍った氷が薄くて渡るのが危険な場合，経験のある人は氷の上を歩かないで這って4つ足で渡るのだ。彼らはなぜそんなことをするのか？ 人が腹ばいになってもそ

の体重は勿論変わらないが，体重を支える面積が増えて1 cm² 当たりの重さが小さくなる。言い換えれば体重を支えている場所に及ぼす圧力が減少するわけなのだ。(Kaist, 387)

⑤ 그는 마루에 큰대자로 가로누웠다 He lay at full length on the floor. 彼は床に大の字に横たわった（google）

⑥ 우리는 찬장을 문에서 가로누이어 운반하였다 We carried the cupboard sideways through the door. 我々は茶箪笥をドアから横向きにして運んだ（google）

3．가로맡다

맡다 はほぼ日本語の「引き受ける」に相当する語であるが，가로 が付くと他人のことに横からしゃしゃり出て引き受けるという意味になる。

⑦ 맨날 남의 싸움만 가로맡아서 해결해야 한다．

毎日他人の喧嘩ばかり一手に引き受けて解決しなければならない

⑧ 그러나 얼마 후 학로가 다시 열패감에 젖어 가정 분란이 재연되고，어머니는 밤마다 문간방에서 일어나는 폭력 행위를 가로맡아 말리는 것이 일과가 되다시피 하였다．

しかし，しばらく後ハンノが再び劣敗感にまみれ，家庭のごたごたが再燃し，母親は夜毎玄関先の部屋で起こる暴力行為を一手に引き受けて止めさせるのが日課になってしまった。(google)

今回は調査中の用法の一部を紹介したが，以後次の点に着目して調査を続ける予定である。

가로 が付く場合，①가로 が付かない場合の語義のうちのどの語義と結びついて使われるか。その場合意味がどのように変容するか。②新しい語義を獲得してものがあるか。③日本語の「横取りする」などのように「不正な，よこしまな」という意味が付け加わるようなことがあるかどうか。

4．結論

以上，主に朝鮮語の「가로 （ヨコ）・세로 （タテ）」について，日本語，英語，中国語をも参考にしつつ考察してきた。

その結果，日本語と朝鮮語の間には，平面に関しては，それほど大きな違いがないが，立体については若干捉え方に違いがあることがわかった。つまり，平面については捉え方に違いがないと言えるのに，立体については，普通底面について「タテ・ヨコ」を決め，垂直方向については「高さ」を使用し，日本語の「奥行き」という言い方をしないこと。しかし，最近は日本語の「奥行き」に対応する 안길이 という形式が使われだしたこと。

また，一般に我々がタテ・ヨコを決める場合の手順は，

① まず，森田（1984）が言うとおり，対象物に上下関係を表す特徴を探しそれを基準にしてタテ・ヨコを決め，

② 対象物の上下関係を示す特徴が見あたらない場合には，話し手の視点によってタテ・ヨコを決める。

という具合に優先順位があるのでないかということ。

数学で面積や体積を出すために使用される場合は，日本語・朝鮮語ともに，底面に対して「タテ・ヨコ」を使用していることから，英語による影響があったのではないかと推測させるものである。

また，複合語においては，最近 가로， 세로 を先行要素とする混種語が新しく造られて使用されるようになっていることがわかる。

そして，複合動詞については，가로 で始まる動詞に数は少ないがマイナスの意味が付加されているものがあることもわかった。今回例としてあげなかったが 가로채다 という語をその例としてあげることができる。

なお，梅田（1971）で「縦に」という副詞の意味で 길이로 という語が使用されているという記述があったが，最近ではこの語を知っている人が少なく

なったようである。ちなみに，中国の朝鮮族の留学生の話によると，布や生地などを切るときは今でも 길이로 という表現とともに，넓이로（短い方向に，幅の方向に）も使われていると言っているという。ということは，古く 가로 ／ 세로 と同時に「長いほうの辺」，「短いほうの，あるいは幅の方向に」という言い方をしていた可能性がある。あるいは，現在韓国でも，仕立て屋を初めとして衣服の生地を扱っている職業の人たちの間にまだこのような用法が残っているかもしれない。

参考文献

梅田博之（1971）『現代朝鮮語基礎語彙集』 アジア・アフリカ言語文化研究所
金田一春彦（1988）『日本語 上・下』 岩波新書 2000 年第 32 刷を利用
国広哲弥（1982）「タテ・ヨコ」『ことばの意味』 平凡社
岩野靖則（1983）「タテ・ヨコの基本的意義」『国語語彙史の研究四』
森田良行（1984）『基礎日本語 3』 角川書店
小学館『日中辞典』（1987）
李熙昇（1993）『 국어대사전 （国語大辞典）』三修社 韓国
門脇誠一（1994）「日・韓語対照研究 ── 類義語の対照研究 1 ──」北海道大学留学生センター年報 第 3 号
門脇誠一（1997）「現代朝鮮語の研究（文法以外の分野）」日本語と外国語との対照研究Ⅳ 『日本語と朝鮮語』 国立国語研究所
油谷幸利（2003）『日韓対照言語学入門』 白帝社